

◎4月22日(日)開催 第3022回例会
ふるさと兵庫100山/バスハイク
「みづめ桜咲く御祓山(773m)へ」に参加して

保久良支部 R.T

ふるさと兵庫100山の一つ「御祓山」へ貸切バスで行く企画を知って参加申込みをした。

当日は天候に恵まれ、予定通りの時間に出発。新神戸トンネルを抜け、北神戸線から中国道～舞鶴道～北近畿豊岡道へと入って八鹿・氷ノ山ICで降りた。国道9号線を西へ少し走った所にある「道の駅/ようか但馬蔵」で小休止をする。店は9時開店のようで、未だ準備中であった。神戸を出て僅か2時間もかからずに但馬・八鹿まで来たことになる。実に便利になったものだ！



大屋町系原の登山口

ここから20分余りで大屋町の系原に到着。民家横の道を入った所にマイカー数台を止めることが出来る駐車場があり、ここが登山口であった。



Sさんの指導による体操で身体をほぐす

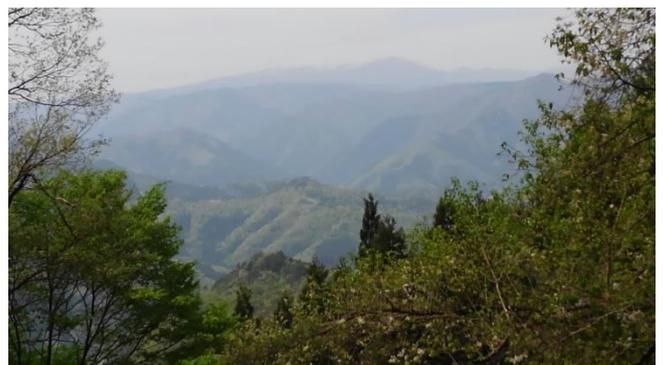
慣れた女性指導による入念な準備体操で身体をほぐした後、出発。表示にある坂尻川沿いの林道をしばらく進むと東屋があった。ここからは急登

となり、かなり厳しい山行となるな～と思った。一昔前までは尾根を直登で登ったそうだが、今は木々が生い茂ったり、倒木が多い為、ジグザグの巻道が作られたとのこと。しかし、この巻道もザラザラしていて滑りやすく、安全を考えた吉野会長がスコップを持参されており、足場を確保しながら進む場所も何箇所かありました。標高500メートル近くで杉林が現れ、その中を登っていくと、幹



大屋町の天然記念物である「みづめ桜」

周りが5メートルは有ろうかと思われるお目当ての「みづめ桜」が目飛び込んできた。今年は開花が早く、盛りを過ぎて散り際の桜となっていたが、白い花を少し残したみづめ桜は、老木の趣が有り見事なものであった。そして、桜の木の正面を遠望すると、美しい残雪の氷ノ山が



残雪の氷ノ山を望む

見え、手前の新緑と相俟って清々しい風景写真のようであった。

ここから御祓山山頂までは急な尾根の難路なので、体力と体調を考えられた3名の方が、この場所で待つことになった。・・・山頂への標識を過ぎると、いきなりロープの張られた急登になる。地面から顔を出している黒いパイプは、上の方で解っ

だが、以前あったのだろう TV の共同アンテナのケーブル用パイプそのまま残されたままのようだ。



急登を登るヒヨコ合同登山隊？

急登の岩場や滑りやすい荒れた道をひたすら登る！・・40 分余りであったろうか？・・ようやく御祓山山頂に到達した・・



三等三角点のある御祓山山頂にて

山頂の周辺は樹木に囲まれて展望は無く、登頂の記念写真を取って早々に下山。10 分程下った尾根の広場で昼食を終えて慎重に下って行った。待っていた 3 名の方と合流し、往路を下って全員

無事下山することが出来た。



慎重に降るヒヨコ女子隊？

帰りに寄った「与布土（よふど）温泉」は、のどかな里山にかこまれた場所にあり、露天風呂に入って疲れた身体を癒す事が出来た上に、貸し切っていた部屋での懇親会では、皆元気な笑顔で、厳しかった本日の山行や、次回の山行に参加する話などを聞いたりして楽しい 1 日を過ごさせてもらいました。

.....

参考（頂いた資料より）

●みずめ桜（えどひがんざくら）

カバノキ科カバノキ属の落葉高木。ヨグソミネバリ（夜糞峰榛）、アズサ（梓）とも呼ばれています。樹皮や材観がサクラに似ていることからミズメザクラ（水目桜）とも呼ばれます。古くは国内木材の中から最も高い弾力性を生かし梓弓を作るときに使用されていました。

皇太子徳仁親王のお印でもあります。

挿入写真提供：勝田 徹（旗振支部）

天 候 晴れ

担 当 例会・自然保護委員会

参加者 40 名（内当会員 40 名）